



アドホック会議

- [アドホック会議の概要](#) (1 ページ)
- [アドホック会議のタスク フロー](#) (1 ページ)
- [会議の連携動作](#) (11 ページ)
- [会議の制限事項](#) (12 ページ)

アドホック会議の概要

アドホック会議では、会議の開催者（場合によっては別の参加者）が会議に参加者を追加できません。

アドホック会議には基本の会議と高度な会議の2種類があります。基本のアドホック会議では、会議の開始者が会議の開催者の役割を果たし、他の参加者を追加または削除できる唯一の参加者となります。高度なアドホック会議では、全参加者が他の参加者を追加または削除できます。高度なアドホック会議では、複数のアドホック会議をリンクすることもできます。

高度なアドホック会議では、個人の参加者と同様にアドホック会議を他のアドホック会議に追加して、複数のアドホック会議をリンクできます。[高度なアドホック会議を有効にする (Advanced Ad Hoc Conference Enabled)] サービスパラメータが[いいえ (False)] に設定されている場合に複数の会議をリンクしようとすると、IP電話にメッセージが表示されます。個人の参加者をアドホック会議に追加する場合に使用できる方法で、アドホック会議を他のアドホック会議に追加することもできます。

アドホック会議のタスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	会議用のソフトキー テンプレートの設定 (2 ページ)	ソフトキー テンプレートに、[会議リスト (Conference List)]、[参加 (Join)]、および[会議の最後のパーティの削除 (Remove)

	コマンドまたはアクション	目的
		Last Conference Party)] の各ソフトキーを追加します。
Step 2	<p>ソフトキーテンプレートと共通デバイスの関連付け (4 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加 (5 ページ) 電話機と共通デバイス設定の関連付け (5 ページ) 	<p>オプションソフトキーテンプレートを電話で使用できるようにするには、この手順か次の手順のいずれかを実行する必要があります。システムが [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従います。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。</p>
Step 3	電話機とソフトキーテンプレートの関連付け (6 ページ)	<p>オプション次の手順は、ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に使用します。ソフトキーテンプレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てを上書きする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。</p>
Step 4	アドホック会議の設定 (6 ページ)	高度な会議を有効にし、参加者の最大数を指定して、会議の接続を切断する時期を指定します。
Step 5	複数ライン同時通話機能の設定 (10 ページ)	複数ライン同時通話機能を有効にして電話会議を作成します。

会議用のソフトキーテンプレートの設定

次の手順を使用して、以下の会議用ソフトキーを使用できるようにします。

ソフトキー	説明	コール状態 (Call States)
会議リスト (ConfList)	アドホック会議内にある参加者の電話番号のリストを表示します。[Cisco Unified CM Administration (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で設定されている場合は、参加者の名前が表示されます。	オンフック (On Hook) 接続されている状態

ソフトキー	説明	コール状態 (Call States)
参加	最大15の確立されたコール（合計で16）を参加させて会議を作成します。	保留 (On Hold)
会議の最後の参加者の削除 (Remove)	会議コントローラは、会議リストを呼び出し、[削除 (Remove)] ソフトキーを使用して会議の参加者を削除することができます。	オンフック (On Hook) 接続されている状態

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- Step 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 必要な既存のテンプレートを選択します。
- Step 4** [デフォルトソフトキーテンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- Step 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウンリストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- Step 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- Step 8** 追加のコール状態でのソフトキーを表示するには、前述のステップを繰り返します。

Step 9 [保存 (Save)] をクリックします。

Step 10 次のいずれかの操作を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキー テンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加」と「電話機のセクションとソフトキー テンプレートの関連付け」を参照してください。

次のタスク

次のいずれかの手順を実行します。

- [ソフトキー テンプレートと共通デバイスの関連付け \(4 ページ\)](#)
- [電話機とソフトキー テンプレートの関連付け \(6 ページ\)](#)

ソフトキー テンプレートと共通デバイスの関連付け

(省略可) ソフトキー テンプレートを電話機に関連付ける方法は2つあります。

- ソフトキー テンプレートを [電話の設定 (Phone Configuration)] に追加する。
- ソフトキー テンプレートを **共通デバイス設定** に追加する。

ここに示す手順では、ソフトキー テンプレートを **共通デバイス設定** に関連付ける方法について説明します。システムが **共通デバイス設定** を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキー テンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、以下を行います。 [電話機とソフトキー テンプレートの関連付け \(6 ページ\)](#)

始める前に

[会議用のソフトキー テンプレートの設定 \(2 ページ\)](#)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加 (5 ページ)	共通デバイス設定に会議のソフトキー テンプレートを追加するには、次の手順を実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
Step 2	電話機と共通デバイス設定の関連付け (5 ページ)	会議のソフトキーの共通デバイス設定を電話にリンクするには、次の手順を実行します。

共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
- Step 2** 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキー テンプレートを関連付けるには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 3** 既存の共通デバイス設定にソフトキー テンプレートを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 既存の共通デバイス設定をクリックします。
- Step 4** [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキー テンプレートを選択します。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 6** 次のいずれかの操作を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
 - 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。

電話機と共通デバイス設定の関連付け

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- Step 2** [検索 (Find)] をクリックし、ソフトキーテンプレートを追加する電話デバイスを選択します。

- Step 3** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウン リストから、新しいソフトキーテンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。

電話機とソフトキーテンプレートの関連付け

(省略可) ソフトキーテンプレートを共有デバイス設定に関連付ける代わりに、この手順を使用します。この手順は、共通デバイス設定とともに機能します。共有デバイス設定での割り当て、またはその他のデフォルトのソフトキー割り当てをオーバーライドするソフトキーテンプレートを割り当てる場合に、この手順を使用できます。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- Step 2** [検索 (Find)] をクリックして、ソフトキーテンプレートを追加する電話を選択します。
- Step 3** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーが含まれているテンプレートを選択します。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** [リセット (Reset)] を押して、電話機の設定を更新します。

アドホック会議の設定

高度なアドホック会議の設定により、開催者以外の参加者が他の参加者を追加および削除したり、全参加者がアドホック会議をリンクしたりできます。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]。
- Step 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからサーバを選択します。
- Step 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- Step 4** [(クラスタ全体のパラメータ (機能 - 電話会議) (Clusterwide Parameters (Features - Conference)))] エリアの各フィールドを設定します。パラメータの説明については、[アドホック会議のサービスパラメータ \(7 ページ\)](#) を参照してください。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[複数ライン同時通話機能の設定 \(10 ページ\)](#)

アドホック会議のサービス パラメータ

アドホック会議の主要なサービス パラメータを次の表に示します。その他の会議サービス パラメータについては、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [詳細設定 (Advanced)] オプションを参照してください。会議サービスパラメータは[クラスタ全体のパラメータ (機能 - 会議) (Clusterwide Parameters (Feature - Conference))] の下に表示されます。

表 1: アドホック会議のサービスパラメータ

サービスパラメータ	説明
[アドホック会議の削除 (Drop Ad Hoc Conference)]	<p>[アドホック会議の削除 (Drop Ad Hoc Conference)]は、電話料金の詐欺行為を防止します。このような詐欺行為では、内部の会議開催者は会議から切断されますが、外部発信者は接続されたままになります。このサービスパラメータの設定値は、アドホック会議が削除される条件を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (Never)]: 会議が削除されることはありません (意図しない会議の終了を防ぐため、デフォルトオプションを使用することが推奨されます)。 • [会議にオンネット参加者がなくなった時点 (When No OnNet Parties Remain in the Conference)]: アクティブな会議の最後のオンネット参加者がコールを切断するかまたは会議から退席すると、その会議が削除されます。Unified Communications Manager は、会議に割り当てられているすべてのリソースを解放します。 <p>(注) 学習したルートパターンがオンネットに分類されるため、ILS 導入でのアドホック会議のドロップ機能が [会議に OnNet パーティが誰も残っていないとき] に設定した場合、関係者はドロップされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [会議の開催者が退席した時点 (When Conference Controller Leaves)]: 主要開催者 (会議作成者) がコールを切断すると、アクティブな会議が終了します。Unified Communications Manager は、会議に割り当てられているすべてのリソースを解放します。 <p>(注) このサービスパラメータを [なし (Never)] に設定することが推奨されます。その他の設定では、意図しない会議の終了が発生する可能性があります。</p> <p>[アドホック会議の削除 (Drop Ad Hoc Conference)] サービスパラメータの効果は、SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 から開始された会議コールと、SIP を実行しているサードパーティの電話から開始された会議コールでは異なります。</p> <p>。</p>
[アドホック会議の最大参加者数 (Maximum Ad Hoc Conference)]	<p>このパラメータは、1つのアドホック会議に参加可能な最大参加者数を指定します。</p> <p>デフォルト値: 4</p>

サービスパラメータ	説明
[高度なアドホック会議の有効化 (Advanced Ad Hoc Conference Enabled)]	このパラメータは、高度なアドホック会議機能が有効であるかどうかを指定します。これには、開催者以外の参加者が他の参加者を追加および削除できる機能や、全参加者がアドホック会議をリンクできる機能などが含まれます。
[非線形アドホック会議リンクの有効化 (Non-linear Ad Hoc Conference Linking Enabled)]	このパラメータは、3つ以上のアドホック会議を1つのアドホック会議に非線形で直接リンクできるかどうか (3つ以上の会議を1つの会議にリンクできるかどうか) を決定します。
[ビデオ会議の代わりに暗号化音声会議を選択する (Choose Encrypted Audio Conference Instead Of Video Conference)]	このパラメータは、会議の開催者の [デバイス セキュリティ モード (Device Security Mode)] が [認証 (Authenticated)] または [暗号化 (Encrypted)] のいずれかに設定されており、2人以上の会議参加者がビデオに対応している場合に、Unified Communications Manager が、アドホック会議コールに暗号化オーディオ会議ブリッジまたは非暗号化ビデオ会議ブリッジのいずれを選択するかを決定します。このリリースでは暗号化ビデオ会議ブリッジがサポートされていないため、Unified Communications Manager は暗号化オーディオ会議ブリッジと非暗号化ビデオ会議ブリッジのいずれかを選択する必要があります。デフォルト値は [はい (True)] です。
[ビデオ会議割り当てのための最小ビデオ対応参加者数 (Minimum Video Capable Participants To Allocate Video Conference)]	このパラメータは、ビデオ会議ブリッジを割り当てるためにアドホック会議に存在している必要があるビデオ対応会議参加者の数を指定します。ビデオ対応参加者の数がこのパラメータで指定されている数よりも少ない場合、Unified Communications Manager はオーディオ会議ブリッジを割り当てます。ビデオ対応参加者の数がこのパラメータに指定されている数以上の場合、Unified Communications Manager は、ビデオ会議ブリッジが使用可能であれば、設定されているメディア リソース グループ リスト (MRGL) からビデオ会議ブリッジを割り当てます。値0を指定すると、会議にビデオ対応参加者がいない場合を含め、常にビデオ会議ブリッジが割り当てられます。オーディオブリッジを使用して確立された会議に追加のビデオ対応参加者が参加すると、この会議はオーディオブリッジのまま、ビデオに変換されることはありません。デフォルト値は 2 です。

サービス パラメータ	説明
[ビデオ会議ブリッジの優先度が高い場合に音声のみの会議にビデオ会議ブリッジを割り当てる (Allocate Video Conference Bridge For Audio Only Conferences When The Video Conference Bridge Has Higher Priority)]	このパラメータは、メディアリソースグループリスト (MRGL) でビデオ会議ブリッジの優先度がオーディオ会議ブリッジよりも高い場合に、Unified Communications Manager が音声のみのアドホック会議コールに対し、ビデオ会議ブリッジが使用可能であればビデオ会議ブリッジを選択するかどうかを指定します。MRGL でオーディオ会議ブリッジの優先度がすべてのビデオ会議ブリッジよりも高い場合、Unified Communications Manager はこのパラメータを無視します。このパラメータは、ローカル会議ブリッジがビデオブリッジであり (かつ MRGL で高い優先度が設定されており)、オーディオ会議ブリッジがリモートロケーションでのみ使用可能な場合に便利です。このような状況でこのパラメータを有効にすると、Unified Communications Manager は音声のみの会議コールに対しても最初にローカルビデオ会議ブリッジの使用を試行します。デフォルト値は [False] です。
[サードパーティアプリケーションでクリックツー会議機能を有効にする (Enable Click-to-Conference for Third-Party Applications)]	このパラメータは、SIP トランクでのクリックツー会議機能を Unified Communications Manager で有効にするかどうかを指定します。クリックツー会議機能により、サードパーティのアプリケーションが SIP アウトオブダイアログ REFER メソッドを使用して会議をセットアップし、SIP SUBSCRIBE/NOTIFY により会議イベントパッケージのために SIP トランクに登録できるようになります。 警告 このパラメータを有効にすると、この機能をサポートするようにコーディングされている CTI アプリケーションに悪影響を及ぼす可能性があります。 デフォルト値: False
[クラスタ会議プレフィックス ID (Cluster Conferencing Prefix Identifier)]	このパラメータは、SIP 会議ブリッジ (Cisco TelePresence MCU や Cisco TelePresence Conductor など) でホストされるアドホック会議とミーミー会議に対して生成される会議 ID にプレフィックスとして追加される最大 8 桁の番号 (例: 0001) を定義します。このフィールドには、Unified Communications Manager が管理する SIP 会議ブリッジが、ネットワーク内の複数クラスタによって共有される場合に、管理者が値を指定する必要があります。アドホック会議とミーミー会議の会議 ID が一意であるようにするため、すべてのクラスタに固有のプレフィックスを設定する必要があります。会議リソースがクラスタ間で共有されない場合、このフィールドに値を指定されないことがあります。

複数ライン同時通話機能の設定

複数ライン同時通話機能では、ユーザが (異なる電話番号、または同じ電話番号で異なるパーティションの) 複数の電話回線のコールに参加して会議を作成できます。

始める前に

- 電話機が複数ライン同時通話機能をサポートするモデルかどうかを確認します。 [電話機能一覧の生成](#)
- [アドホック会議の設定 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)]。 [デフォルト デバイス プロファイルの設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** [デバイス プロファイル タイプ (Device Profile Type)] ドロップダウンリストから、電話機のモデルを選択します。
- Step 3** [デバイス プロトコル (Device Protocol)] ドロップダウンリストから、関連する SCCP または SIP プロトコルを選択します。
- Step 4** [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] を [オン (On)] に設定します。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

会議の連携動作

機能	連携動作
[C 割込 (cBarge)] を使用した会議	<p>会議を開始するには、[C 割込 (cBarge)] ソフトキーを押すか、またはシングル ボタン C 割り込み機能が有効な場合にはアクティブ コールの共有回線ボタンを押します。C 割り込みが開始されると、共有会議ブリッジが使用可能な場合には、このブリッジを使用して割り込みコールが設定されます。元のコールが分割され、会議ブリッジに参加します。参加者全員のコール情報が [会議 (Conference)] に変わります。</p> <p>割り込み先コールが会議コールになり、割り込み対象デバイスが会議の開催者になります。会議の開催者は、会議にさらに参加者を追加するか、または参加者を削除できます。</p> <p>いずれかの参加者がコールを解放すると、会議には2人の参加者が残されます。この残り2名の参加者に対し短い中断が発生し、これらの参加者はポイントツーポイントコールとして再接続されます。これにより、共有会議リソースが解放されます。</p>

機能	連携動作
コールパーク、コール転送、およびリダイレクトの連携動作	会議の開催者が会議の転送、パーク、または他の参加者へのリダイレクトを行うと、コールを取得する参加者が、会議の実質的な開催者となります。実質的な開催者は、会議への参加者の追加や、会議に追加されている参加者の削除はできませんが、会議の転送、パーク、または他の参加者へのリダイレクトを行うことができます。会議が他の参加者にリダイレクトされると、そのリダイレクト先の参加者が、会議の実質的な開催者となります。この実質的な開催者がコールを終了すると、会議が終了します。
SIP 電話のソフトキー表示	[参加者 (ConfList)] および [削除 (Remove)] ソフトキー機能は、SCCP 電話でのみ使用できます。SIP 電話では [詳細を表示 (Show Details)] ボタンに類似の機能が設定されています。

会議の制限事項

アドホック会議には次の制限事項が適用されます。

特長	機能制限
アドホック会議	<p>Unified Communications Managerは、サーバごと Unified Communications Managerに最大100の同時アドホック会議をサポートします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、アドホック会議あたり最大64人の参加者がサポートされています（十分な会議リソースが使用可能である場合）。リンクされたアドホック会議の場合、システムでは各会議が1人の参加者として扱われます。</p>
<p>SIP 電話でのアドホック会議:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP Phone 7911 • Cisco Unified IP Phone 7941 • Cisco Unified IP Phone 7961 	<p>Unified Communications Managerは、新しい参加者が追加されると「「ビープ」」音を鳴らし、新しい参加者がアドホック会議から退席すると「「ビープビープ」」音を鳴らします。参加者がアドホック会議に追加されるときに、SIP を実行している電話のユーザにはビープ音が聞こえないことがあります。参加者がアドホック会議から退席するとき、SIP を実行している電話のユーザには「「ビープビープ」」音が聞こえないことがあります。ユーザにビープ音が聞こえない原因は、Unified Communications Manager が会議プロセス中に接続のセットアップと切断にかかる時間にあります。</p> <p>SIP を実行する電話のアドホック会議リンクを起動するには、会議機能と転送機能を使用する必要があります。直接転送と参加はサポートされていません。SIP を実行するサポートされる電話は、Cisco Unified IP Phone 7911、7941、7961 です。</p>

特長	機能制限
<p>SIP 電話でのアドホック会議:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP Phone 7940 • Cisco Unified IP Phone 7960 • サードパーティの電話 	<ul style="list-style-type: none"> • 電話には、個々のコールが会議コールとして表示されます。Cisco Unified IP Phones 7940 と 7960 では、ローカル会議コールを作成できますが、アドホック会議コールは作成できません。 • 会議リスト (ConfList) は使用できません。 • 会議への最後の参加者の削除 (RmLstC) 機能は使用できません。 • アドホック会議の削除機能はサポートされていません。 • SIP プロファイルの [会議参加が有効 (Conference Join Enabled)] パラメータは、会議開催者がローカルでホストされている会議を退席するとき、SIP を実行する電話の動作を制御します。[会議参加が有効 (Conference Join Enabled)] チェックボックスがオフの場合、会議開催者がアドホック会議コールを終了すると、すべてのログが切断されます。[会議参加が有効 (Conference Join Enabled)] チェックボックスがオンの場合、残り 2 人の参加者が接続されたままの状態になります。 • [アドホック会議の削除 (Drop Ad Hoc Conference)] パラメータの設定によって、SCCP を実行する電話から開始される会議コールに対して適用されるのと同じ制御レベルを実現するため、管理者は、SIP を実行する電話 (Cisco Unified IP Phone 7940 または 60) から開始される会議に対し、[会議参加が有効 (Conference Join Enabled)] SIP プロファイルパラメータと [オフネット間転送のブロック (Block OffNet to OffNet Transfer)] サービスパラメータを組み合わせで使用できます (SIP を実行する電話は、会議コールからドロップアウトすると転送を実行するため、[オフネット間転送のブロック (Block OffNet to OffNet Transfer)] を使用して 2 つのオフネット電話がコールに残ることができないようにすることで、電話料金の詐欺行為を防止できます)。 • Unified Communications Manager は、新しい参加者が追加されると「「ブープ」」音を鳴らし、新しい参加者がアドホック会議から退席すると「「ブープブープ」」音を鳴らします。参加者がアドホック会議に追加されるときに、SIP を実行している電話のユーザにはブープ音が聞こえないことがあります。参加者がアドホック会議から退席するとき、SIP を実行している電話のユーザには「「ブープブープ」」音が聞こえないことがあります。ユーザにブープ音が聞こえない原因は、Unified Communications Manager が会議プロセス中に接続のセットアップと切断にかかる時間にあります。

特長	機能制限
<p>2人の参加者が接続している場合でも電話に[会議 (To Conference)]が表示される</p>	<p>パブリッシャ (CmA11) とサブスクライバ (CmA2) を使用して Call Manager クラスタを設定します。</p> <p>電話 A、B、C は CmA1 に登録されています。電話 D は CmA2 に登録されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A (1000)、B (4000)、C (5000)、D (6000) 間で、A を開催者として、コンサルタティブまたはブラインドアドホック会議を設定します。 • CmA2 をシャットダウンします。 • 電話 D は通話保護モードになります。[終了 (End Call)] ソフトキーを押します。 • 電話 A、B、C が会議に参加しています。 • 電話 A、B、C が会議に参加しています。 • 電話 A を切断します。これで電話 B と C がダイレクト コールになります。問題: 電話 B と C はまだ会議に参加しています。 • 電話 A を切断します。これで電話 B と C がダイレクト コールになります。問題: 電話 B と C はまだ会議に参加しています。 • 電話 B を切断します。電話 C にはコールはありません。電話 B と C はまだ会議に参加しています。問題: 電話 C はまだ会議に参加しています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。